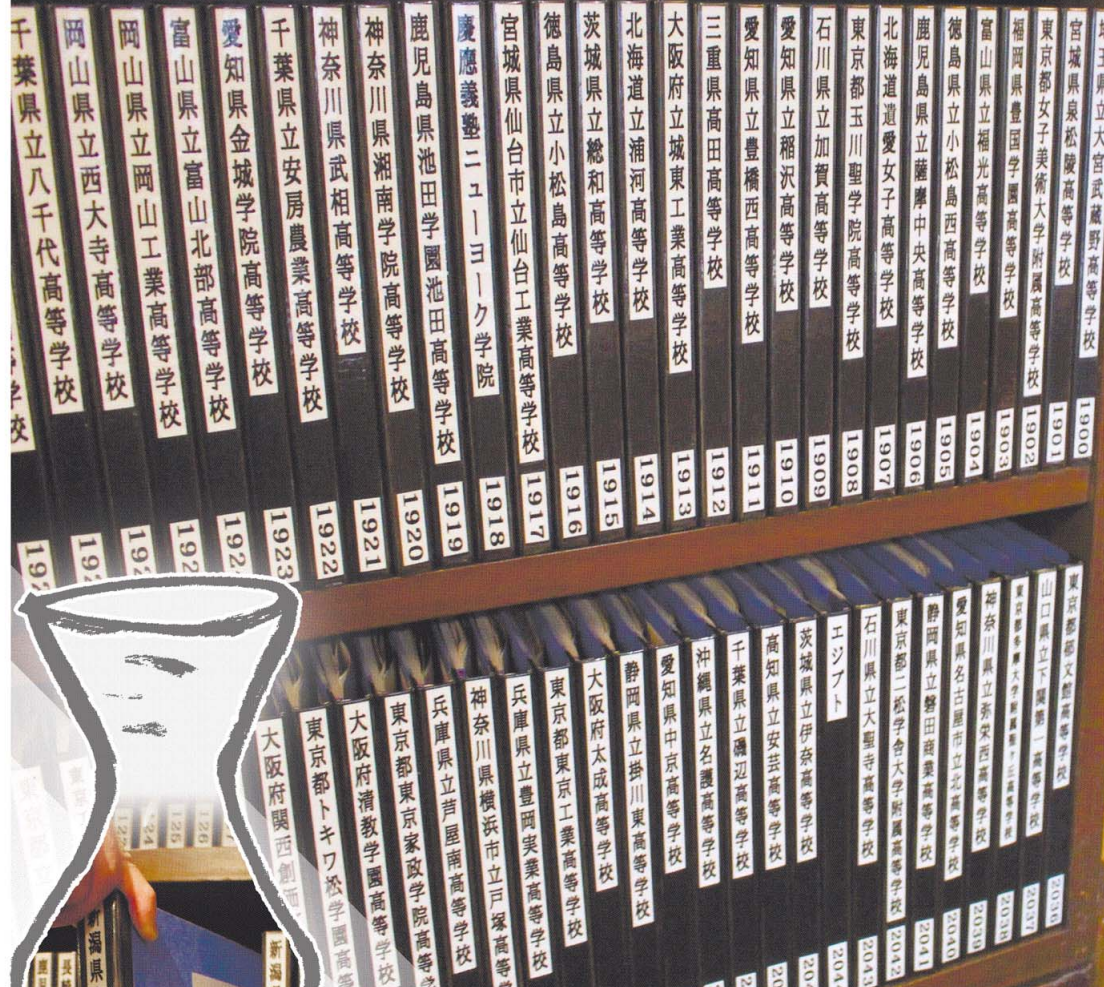


1月24日(火)2017年

新潟日報

Otona
おとなプラス

「高校よせがきノート」が並ぶ「新橋 有薫酒蔵」東京都港区



のれんくぐれば そこはふるさと

大都会東京で、ふるさとのぬくもりに浸れる居酒屋がある。新潟日報東京支社の同僚6人で店を訪ねてみた。各自がノートに近況を書き込むと、高田高OBの岡田健さん(36)、新潟南高OBの藤間民恵さん(26)があいさつに来てくれた。

「きノート」だ。客が出身高校の思い出や近況をつづるもので、店内には全国各地の高校名が記された3千冊超がびっしりと並ぶ。

岡田さん「森先生です。まさか先輩に会うとは。実家で日報取っています」

「みんな元気?」「〇〇先生に久々に会ったよ。部活帰りに通った食堂、校舎が取り壊されたこと、文化祭に体育祭、仕事の悩み、喜び。イに出場しました。先輩と会えてうれいす。元気もらいました!」

初対面だが同窓生で、酒も手伝い会話が盛り上がる。やりとりを見ていた松永さんが優しくほほ笑む。「広中越、佐渡、高田北城、新発田農業、糸魚川、村上桜ヶ丘、新井:。」

同じ時間帯に同窓生が居合わせる、とおかみの松永洋子さん(72)が後輩を先輩のテーブルに連れ出し、会話をしてくれる。母校のぬくもりが指に伝わってくる。

店内には「新潟」を楽しめる店がまだまだある。味、風情、人。のれんをくぐれば、そこはふるさと。会社帰りにふらりと立ち寄った。(東京支社・小熊隆也、長野清隆)

県勢のノートは新潟高をはじめ64校分が並ぶ。杯を傾ければ、母校の思い出話に花が咲く